

海老名市立社家小学校 学校運営協議会 議事録
(令和6年度 第3回)

- 1 日 時 令和7年2月14日(金) 13:30~15:00
- 2 場 所 海老名市立社家小学校 家庭科室
- 3 出席委員 津々木美幸委員長、佐々木宏文委員、春日井美穂委員、米山恵委員、朽木正美委員、中鉢裕季委員、浅井大輔校長、尾崎由美教頭
- 4 会議の内容

(1) 挨拶

津々木会長： インフルエンザもはやらず、子どもたちも元気でよかった。このまま今年度最後までいってほしい。応援団としても今年度も無事に終えたい。よろしくお願ひしたい。

浅井校長： お集まりいただき感謝する。本当にあっという間の1年だった。学級閉鎖等なく、校内平和に過ごせている。ご協力感謝する。

(2) 現在の教育活動について

浅井校長： 子どもたちは穏やかに過ごせている。おかげさまで、喫緊に抱えている課題はない。長期的に見れば、「インクルーシブ教育の推進」等は課題ではある。また、本校に限らず、不登校は増えている。もうすぐ小・中合わせて400人を超える。継続的に来られていない子も多い。本校は教室には行けなくてもスペシャルサポートルームで過ごせている子もいる。学習の保証が難しいところではある。

自分が興味を持ち出したところから登校刺激をしていきたい。いじめ問題なども全くないわけではない。難しいのはトラブルなのかいじめなのか、判断が難しい。保護者の気持ちにも寄り添う必要性がある。子どもを中心として、対等な関係性で保護者と学校が話し合っていきたい。

50周年に向けて。2028年2月15日がその日になる。来年度はどうして行くか忌憚なく話し合い、再来年に具体的な話を進めていきたい。

(3) 学校評価について

浅井校長： 昨年度と結果を比較してみた。全体としてどの項目も大きな変化はないが、児童や保護者は母数が大きいので3%の変動も大きな変動として

捉えてみた。

教師は、「学校施設の充実」の項目が若干低く、「授業の理解度」も下がっていると捉えているが、これは校内研究により、職員の指導への意識が高まっているからこそその現れである、と良い意味で考える。

また、「安全に登校している」に対して、児童・保護者はわりと安全に登校していると捉えているが、教職員はそうではなく、意識の乖離を感じる。委員の皆さんも教職員と捉えは同様である。本校でも大きくは無いが、事故が全くないわけではない。安全指導は継続していく必要がある。

「宿題以外の学習はしているか」について。現在「しゃけっ子ノート」として自主学習を推奨している。扱いや浸透はまだまだであるので、引き続き効果的に活用できるようにしていきたい。保護者周知も積極的にしていく必要がある。

「地域連携」に関して、大変サポートしていただいている。感謝している。サポートしていただくだけではなく、地域の方と学習・授業作りでも積極的に関わっていくというところを高めていく必要がある。

「小中一貫教育の取り組み」について。家庭、地域への周知が足りないと感じる。さらにPRしていきたい。

最後に、「学校は楽しい」と感じてくれている数値は高い結果となったが、逆に1割の楽しくないという子たちも存在している。そういった児童たちのサポートをしていきたい。

(4) 来年度計画について

尾崎 教頭： まず「子どもたちの実態」だが、見ていただいた通り元気に楽しく過ごしている。

「積極的な挨拶」については、まだまだ課題があるので取り組んでいきたい。

「自然に親しむ」点について。機会が少ないが、今年度途中から青健連の皆さんが準備してくださった畑で、様々な野菜を収穫させていただけた。自然に親しむ良いきっかけとなった。ぜひ続けていきたい。

「目指す姿」について。学校教育目標のもと、すべての子が安心して通える学校を目指し来年度も取り組んでいきたい。

来年度の日程について。来年度も1年の補助、えびなっこスクール、ふれあい教室などまたお世話になる。

(5) キャリア教育について

尾崎 教頭： 皆様のご紹介のおかげで、講師を選定できた、感謝申しあげる。昨年度は6年生だけだったが、今年度は対象を広げ、3年生・6年生で行い

たい。3年生段階では、様々な職業があることや働き手の思いを知ること
をめあてとし、6年生は自分の将来や職業について考えるきっかけと
なることをめあてとして設定している。

日時について確認。3月。講師の具体。体育館で実施。講演会方式で
1人20分ずつ。ぜひ皆様もご参加いただきたい。

(6) 情報交換 (有馬中学校区の子どもたちの様子など含む)

津々木会長：交通安全について。放課後の自転車の乗り方。危険な乗り方をしている
児童も見受けられる。自転車通学に向けて高学年でも指導を実施しては
どうか。

三田委員：有馬中学校は乗り方についてはとても厳しく指導している。事故も少な
いと聞いている。学区の特徴であるので、様々な取組は確かに必要であ
る。

佐々木委員：同じく安全教育について。相模川など、行ったら危ない場所の指導など
は学校でしているか。学区内の安全な場所、危険な場所など子どもたち
と共有していただきたい。

浅井校長：考えていきたい。

春日井委員：やはり登下校で危ないと感じる児童はいる。高学年も同様である。また、
教室で給食を食べられない子たちがいることを初めて知った。あらため
ていろいろな子がいると感じた。多様性やいろいろな配慮が必要。

三田委員：有馬中学校の学校アンケートも見たが、割と似ている結果だった。
中学校では貸与されているPCも持ち帰っている子といない子に差が
ある。また中学校はPTAを大きく変えていくが、社家のPTAは今後
どうなるか。PTAの在り方も考えていく必要がある。

浅井校長：社家小と門沢橋小は、本部と相談した結果、現状で進めていくことにな
ったが、あり方については継続的に考えていく必要がある。

中鉢委員：今回、このような立場で参加させていただいていい経験になった。子ど
もたちが自由に過ごしている様子がよく見られてよかった。給食の時間
がもう少し長いといいとも感じた。

朽木委員：公園のごみ拾いを自治会でしている。ごみを拾っていると手伝っている
子もいる。健やかに育っていると感じる。子どもたちのスマホ事情につ
いて。低年齢化しているが学校で指導はしているか。

浅井校長：1年生から6年生まで1時間ずつ「サイバー教室」として警察の方に来ていただいて指導をしてもらっている。トラブルについては、学校が介入しにくい点はある。保護者を巻き込む必要がある。これからさらに低年齢化、多用化が進むことには確かに懸念がある。

中鉢委員：タブレット使用時間のルール化が必要かもしれない。一方でどんどん活用したほうがいいとも感じる。大変難しい。

米山委員：やはり下校時等の歩き方に懸念がある。子どもだけに限らず、縁石を歩かせている保護者がおり、幼稚園に連絡が入ったことがある。地域でも心配している。折りにふれ発信していく必要がある。

浅井校長：今年度も大変お世話になり感謝申しあげる。